

# 体育科学習指導案

日 時 平成23年9月22日（木）第5校時  
場 所 苫前町立苫前小学校 体育館  
児 童 第5学年 11名  
指導者 教諭 因 雅仁

## 1 単元名

タグラグビー

## 2 児童の実態

体育の学習に対する意欲及び個人技能において個人差が顕著に見られる。体を動かすことを好む児童が多いが、走ったり、ボール運動をしたりすることに苦手意識を抱いている児童もいる。これまで学習してきたボール運動では、ボール操作の技能において個人差が見られた。意欲的にボールに関わり、自分が狙ったところに正確にボールを投げたり、速いボールを捕ったりできる児童がいる反面、全くボールに関わることができない児童の姿もあった。

体育科におけるグループ活動では、互いを認め合い、声を掛け合いながら取り組むことができるが、チームとして作戦について話し合いを深めたり、チームの課題を把握し、効果的な練習方法を考えたりする段階までは至っていない。

## 3 単元について

5年生のボール運動「ゴール型」では、「投げる、受ける、蹴る、止める、運ぶ」といったボール操作をしたり、ボールを保持する人からボールを受けることのできる場所に動いたりして攻守入り交じったゲームができるようにする（技能）」が目標である。しかし、ボール操作技能に関しては、個人差が大きく、特にボールを蹴ったり、運んだりすることは高学年の児童にとって難しいことである。本学級の児童の実態からも同様であり、得意な児童が中心となってゲームが進むことが多い。そこでゴール型の教材としてタグラグビーを行い、全ての児童が運動に親しみ、活躍できる場をつくりたいと考えた。タグラグビーは一定の時間の中で、パスとランを使って攻めたり、相手のタグを取ることで守ったりして、相手のチームと得点を競って楽しむ運動である。タグラグビーは、ボールを投げる、捕る、走るの繰り返しからなるボールゲームである。相手から逃げながらゴールを目指すことから、鬼遊びの要素が含まれており、児童にとって取り組みやすいといえる。また、他のボール運動と比べてボール操作技能が簡単であり、運動が苦手な子も含めて容易に楽しめる運動であることから、ボール運動ゴール型として単元を設定した。

また、タグラグビーのもう一つの魅力は身体接触が無いことである。身体接触が無い分、男女差は体格差によって左右されることが少なく、全ての児童が意欲的に取り組むことができる運動であることから、運動に苦手意識がある児童も含めて、活発に活動する姿が期待できる。

そしてタグラグビーで身に付けた動き方は、今後、児童が学習する他のボール運動の中でも必要となる動きの要素が含まれている。ボール操作が容易な単元だからこそ、個々の

動き方に着目させることができ、今後のボール運動の中でも活用できる技能として、全ての児童に確実に身に付けさせていきたい。

『運動領域の系統性』

【第1学年、第2学年】

『ボール投げゲーム』

- 的当て遊び
- キャッチボール
- ドッジボール
- 『ボール蹴りゲーム』
- 的当て遊び
- シュートゲーム
- 『鬼遊び』
- 一人鬼、二人鬼
- 宝取り鬼
- しっぽ取り鬼

【第3学年、第4学年】

『ゴール型ゲーム』

- ハンドボール
- ポートボール
- ラインサッカー
- フラッグフットボール
- 『体づくり運動』
- ◎多様な動きをつくる運動
- 体のバランスをとる運動
- 体を移動する運動

【第5学年、第6学年】

『ボール運動ゴール型』

◎タグラグビー

- サッカー
- バスケットボール
- 『体づくり運動』
- ◎体力を高める運動
- 体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動

## 4 研究の視点

### (1) 学習過程の工夫について

#### ～習得した知識・技能の活用を中心とした、課題解決のための授業展開～

本単元において主に活用する技能は2つである。1つめはボール運動を行う中で、児童が最も難しく感じる「ボール操作」である。2つめはチームとして得点を得るための「ボールを受ける動き」である。

1つめの「ボール操作」については、「ボールを投げる・捕る」技能であり、これまでの体育の学習において何度も練習してきた経験があり、すでに習得している技能を活用して授業を展開していく。

2つめの「ボールを受ける動き」については、タグラグビーは、「ボールを保持した児童はタグを取られるとボールから手を離さなければならない」「ボールは後方及び真横にしかパスできない」「ボールを落としてはいけない（バウンドさせてはいけない）」ため、ボールをもっていない児童がパスを受けやすい位置に移動することが重要である。そこでドリルゲームの中で「スペースへの動き」や「ボールを保持する人へのサポート」を繰り返し練習して、「ボールを受ける動き」をしっかりと習得させる。その後、タスクゲームでは相手がいる中で「ボールを受ける動き」を試したり、ゲームでは「ボールを受ける動き」を生かした攻め方を工夫したりすることで習得した技能を活用していく。

単元における「活用」については、単元序盤では、「ボール操作」と「ボールを受ける動き」の技能を確認（身に付いていない児童についてはここで習得）させる場面を設定し、単元の中盤から終盤では、その技能を活用した「ゲーム」を中心に授業を行うこととする。授業者としては、習得した個人技能（パス）を、集団の中で動きながら状況に応じて発揮

すること（ゲームの中で）を活用の一つと捉えている。タスクゲームやゲームを活用の場として設定し、すでに習得した技能を生かす場面を工夫していくことで、児童が「正確にパスを回して、ゴールを目指す」ためにはどうしたらよいかという課題を解決するために、意欲的に学習に取り組むことができるようになる。また、ゲーム（活用）と練習（習得）の相互関係を大切にしながら学習を展開する。「①練習で身に付けた技能を用いてゲームを行う」（課題の洗い出し）「②ゲームで出された反省を改善するための練習を行う」（課題解決）「③練習で身に付けた技能を確かめるゲームを行う」（振り返り）といった流れから、確かな技能の習得と、習得した技能の活用を1単位時間の中で同時に進めることができ、児童に身に付けさせたい力を確実に定着させることができるようになる。

本時では、すでに習得した技能をもとにゲームを行うことで、より確かな技能習得を図ると共に、技能の活用を通して各チームの課題を自ら考えて解決しようとする問題解決的な学習を展開する。

## （2）言語活動の充実について

### ～言語化することにより思考力・判断力・表現力を高める活動の工夫～

単元を通して、自分の活動の反省と次はこうしたいという意識を、学習カードに言語化して書く活動を取り入れる。練習やゲームの中で自らが感じた課題を言語化することにより、次の練習では何を意識して取り組めばよいのかが明確となり、児童の思考を整理することができる。特に練習やゲームの中でパスが上手につながる時と、つながらない時の違いを考えさせ、学習シートに言語化させる。言語化により児童は思考を整理することができ、パスを上手につなげるためには、どうしたらよいかを判断させていくことができるようになる。

また、練習や試合の中で、「パスを出す側」と「パスを受ける側」の意思疎通を大切にさせたい。パスを出す側は常に「どこにいてほしいのか。」、パスを受ける側は「どのタイミングでパスがほしいのか。」を言語化させて伝えることで、判断力や表現力の育成を図っていく。そのために、初めてタグラグビーにふれる児童が、わかりやすく運動できるように、「プレーに必要なかけ声」を提示する。「自分はチームの仲間になんをしてほしいのか」を伝えることができるような話形があれば、自分の思いを相手に伝えることができるようになる。さらにゲームを進めていく中で、児童が提示した話形を越えて、自分の考えを言語化することができるようにしていきたい。

本時では、チーム毎に個人の反省をもとに作戦会議を行う場面を設定する。互いの意見をもとに、チームの特徴に合わせた作戦を考えたり、その作戦を達成するために練習方法を考えたりすることで、思考力や表現力を育てることができるようになる。

## （3）学習意欲を高める工夫について

### ～学び合い・伝え合いの場の工夫によるアプローチ～

単にボール操作の技能が身に付いていても得点を重ねることができないのがタグラグビーである。そこで重要になってくるのが、「チームとしての効果的な攻め方・守り方」である。個の考えを引き出す時間を十分に確保した後、チーム毎で話し合い活動を行い、自分のチームの攻め方・守り方のよい点や課題を見つけ出す。その後、課題を解決するため

の練習を考え、工夫する活動を通して、チーム戦術を深め、効果的に攻めたり、守ったりすることができるようにする。また、互いの考えを尊重しながら話し合わせることで、協力してチームの課題を解決しようとする意欲を引き出したい。

また、本単元では4人グループが2チーム、3人グループが1チームでチームを構成する。タグラグビーに触れるのが初めての児童ではあるが、これまでの運動経験や運動能力、ボール操作の技能等を考慮しながら、運動が得意な児童と積極的にボールに関われない児童の配置を考慮したり、話し合い活動の中で中心となる児童や建設的な意見が出せる児童の配置を考えたりしながら、チーム力のバランスを保ち、進んで学び会える環境作りを行うこととする。さらにゲームの中ではプレーする人数を少なくすることで、全員がボールの関わるような状況を作り出し、ボール運動が得意・不得意に関係なく、個々の学習意欲を高めることができるようになる。と考える。

本時では、話し合いの観点を明確に提示することで、進んで自分の考えを発言することができ、互いに学び合える環境づくりを行うことで、個々の学習意欲を高めることができる。と考える。

## 5 目 標

### 【関心・意欲・態度】

友達と協力しながら、練習やゲームを楽しもうとする。

### 【思考・判断】

チームの作戦を考えたり、その達成に必要な練習を工夫したりすることができる。

### 【技 能】

正確にパスを出したり、的確な位置でパスを受けたりして攻めたり、相手のタグを取って守ったりすることができる。

## 6 指導計画

	学習活動（◎児童の様子・☆支援）	【評価規準】と視点
つ か む	<p>【1時間目】</p> <p>課題 タグラグビーにトライしよう！</p> <p>◎タグラグビーのルールを確認して、簡単なルールでゲームをする。</p>  <p>☆ ICT を活用し、実際のゲームの様子を観させることで児童にタグラグビーのイメージをもたせる。</p> <p>ルールが簡単なボール運動だから、できそうだね！</p> <p>タッチすればよいかから、おにごっこみたいだ！</p> <p>どうしたら点数がたくさん取れるだろう？</p>	<p>視点1 「習得した技能を活用する学習過程の工夫」 既習事項(投げる,捕る技能)を生かした学習課題の設定により意欲化を図る。</p> <p>視点3 「グルーピングの工夫」 運動技能や経験,話し合い活動で中心となる児童の配置を工夫し,学び合える環境作りを行う。</p> <p>【関・意・態】 友達と協力しながら、タ</p>

身に付ける

【2, 3, 4 時間目】

課題 パスやランを身に付けてゴールを目指そう！

- ◎ドリルゲームでは、パスの出し方やパスの受け方を身に付けるための練習を行う。(再習得)
- ◎タスクゲームでは、チームでパスをつなぐための動き方や攻め方を身に付けるための練習を行う。(活用)
- ☆習得した個々の技能を、ゲームの中で活用させる。

狙ったところにパスを出したり、速いパスを上手に受けたりすることができたね！

ボールをもった人の近くに行くと、パスを受けることができたよ！

パスを受けるのが難しかったよ。どうしたら上手にパスを受けることができるのかな？

- ◎確かめのゲームを行い、チーム毎に個々の技能の習得状況やチームとしての攻め方等について話し合う。

全員が動きながら、正確にパスをつなぐためには、フォーメーションが重要だね！

ボールをもっている人がパスを出しやすい位置にいることが大切だね！

素速くパスを回すには、ボールをもっていない人の動きが大切だね！

【5 時間目】 本時

課題 チームで攻め方を工夫して、ゲームを楽しもう！

生かす

- ◎前時までには、習得した技能をもとに、攻め方を工夫してゲームを楽しむ。
- ◎点数をたくさん取るためには、どんな作戦が必要か話し合う。

ボールをもった人の後ろに必ず2人以上サポートにつこう！

ボールをもったらコートの中からコートまで、ラインを作ることになろう！

真ん中から攻めないうで、コートの外側から攻めるようにしよう！

- ◎チームで考えた作戦を成功させるための練習方法を選び、チーム毎に練習に取り組む。
- ☆これまでに経験した練習方法を掲示し、選択できるようにさせる。

タスクゲームの3対1をしてサポートの練習を試みよう！

ドリルゲームの円形パス回しを、ラインパス回しに変えて練習してみよう！

外側から攻めるために、ボールをもっていない人の走り方を練習しよう！

グラブビーを楽しもうとする。(観察)

視点1 「習得した技能の活用」 習得した技能を活用することで、新たな技能の習得を図る。

【技能】

正確にパスをしたり、受けやすい位置に移動してパスを受けたりしてゴールを目指すことができる。(観察)

視点2 「課題の言語化」 試しのゲームにおける課題を言語化することで、思考力や表現力の育成を図る。

【思考・判断】

ゲームの反省をもとに、チームの作戦について考えることができる。(学習シート・観察)

視点1 「ゲームでの技能の活用」 習得した技能をゲームで活用することで課題解決を図る学習展開の工夫

視点2 「指示の言語化」 ゲームにおいて、自分の考えや指示を言語化することで表現力の育成を図る。

視点3 「交流の視点の明確化」 話し合いの観点を明確にし、進んで発言させることで個々の学習意欲を高める工夫を行う。

☆チームの課題に適した作戦を立てたり、課題を解決するための練習方法を選択したりできるよう支援する。

◎確かめのゲームの中で習得した技能やチームで立てた作戦を活用しながら、ゲームを楽しむ。

◎ゲームから出された反省をもとに、次時の課題を確認する。

☆攻め方の工夫から守り方の工夫へ、児童が思考をつなげられるように支援する。

点数が取れるようになったから、守り方も工夫しよう！

1対1だと守れないから、チームとして守るにはどうしたらよいだろう？

相手ボールになったときの守り方や動き方を考えてみよう！

### 【6時間目】

課題 チームで守り方を工夫して、ゲームを楽しもう！

◎前時のゲームで出された反省をもとに、組織的な守り方を工夫してゲームを楽しむ。

◎点数を取られないためには、どんな作戦が必要か話し合う。

みんなでボールをもった人に向かうのではなく、コート内のバランスを考えて守ろう！

守るときもラインを崩さず、ボールをもった人を囲んでタグを取ろう！

相手ボールになったときは、まず1番近い人がボールをもった人の前に立とう！

◎チームで考えた作戦を成功させるための練習方法を考え、チーム毎に練習に取り組む。

☆これまでに経験した練習やゲームの中の動き(守り方)を参考にさせ、チームとして効果的な練習方法を考えさせる。

### 【7時間目】

課題 練習の成果を生かし、目指せタグラグビー KING！

◎チームで工夫した攻め方や守り方を生かして、ゲームを楽しむ。

☆これまでの学習を生かし、チームの作戦を実行しながら攻めたり、守ったりできるように促す。

### 【思考・判断】

チームでの話し合いを通して、チームの作戦を考えたり、練習方法を考えたりすることができる。

(学習シート・観察)

### 【技能】

ゲームの中で正確にパスをしたり、受けやすい位置に移動してパスを受けたりしてゴールを目指すことができる。(観察)

### 【関・意・態】

友達と協力して作戦を立てたり、練習に取り組んだりする。(観察)

視点2「言語化による思考のつながり」前時の学習成果を言語化することにより攻め方から守り方へ思考をつなげる工夫を行う。

視点3「交流の視点の明確化」話し合いの観点を明確にし、進んで発言させることで個々の学習意欲を高める工夫を行う。

### 【思考・判断】

チームとして、効果的な守り方を考えたり、練習方法を考えたりすることができる。

### 【技能】

組織的に守り、相手の攻めを防ぐことができる。

(学習シート・観察)

### 【関・意・態】

友達と協力しながら、練習の成果を生かし、ゲームを楽しもうとする。

まとめ

## 7 本 時

### (1) 本時の目標

・友達と協力しながら作戦を考えたり，練習に取り組んだりする。

(関・意・態)

・ゲームの反省を生かしてチームに応じた作戦を考え，達成するために練習を工夫しようとする。

(思考・判断)

### (2) 本時の展開 (5 / 7 時間)

	児童の活動	○支援・☆評価
見 通 す 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の準備</li> <li>・準備運動 (チーム毎に行う)</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>前時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしたらたくさん点数が取れるのかな？</li> <li>・チームでパスをつなぐためには，どんな動きが必要になるのかな？</li> </ul> </div> <p>&lt;課題&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>パスを回して相手ゴールを目指すために，攻め方を工夫しよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0; display: inline-block;"> <p>もとになる個人技能 (既習) ☆パス (ボールを投げる・捕る) ☆パスを受ける動き</p> </div> 	<p>○準備運動を通して，体も心も準備させる。</p> <p>○学習シート，掲示物をもとに前時の活動を想起させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0; display: inline-block;"> <p>視点2 チームでの作戦会議の設定 前時のゲームにおける個の課題を持ち寄り，作戦会議を行う。自分の考えを言語化することで思考力や表現力の育成を図る。</p> </div>
	<p>○前時の確かめのゲームから，個人技能を生かしながらパスをつないで相手ゴールを目指すにはどうしたらよいかを記入した学習シートを持ち寄る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>ボールをもった人の後ろに2人以上サポートにつけば，どちらかにパスが出せるよ！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>全員が一直線になるとパスがつながるかもしれないよ！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>パスがほしい人は，サポートについたら声をかけてあげるといいよ！</p> </div> </div> <p>○チームで意見を交流する (作戦会議)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスを受ける側のサポートを速く，しかも2人以上にすればいいんじゃないかな？</li> <li>・ただ単にサポートに入るのではなく，パスを受ける角度も考えればいいんじゃないかな？</li> </ul> <p>→ 3対1のタスクゲームでパスを受ける練習をしてみよう。</p> </div>	<p>【思考・判断】</p> <p>☆反省をもとにチームに応じた作戦を考え，練習方法を工夫しようとする。 (学習シート)</p> <p>【関・意・態】</p> <p>☆進んで練習方法を考えたり，練習に取り組んだりしようとする。(観察)</p> <p>○既習の練習方法を想起させ，自己決定をさせる。</p>
考 え る 15 分		

確  
か  
め  
る  
15  
分  
  
振  
り  
返  
る  
10  
分

- ・サポートの人をおとりにして、逆のサイドに向かって攻めてみるのはどうかな？
  - ・近い人をとばして、奥までパスを投げて攻めるのはどうかな？
- 2 チーム合同で、4 対 2 のタスクゲームで攻める練習をしよう！

- チーム毎に課題を解決するための練習方法を選択し、実際に練習を行う。(ドリルゲーム, タスクゲーム)
- 確かめのゲームをする。(4分ゲーム×3試合)
- チーム毎にゲームの反省をする。

2人でサポートに来てくれると、パスコースが増えてパスが出しやすかったよ！

サポートの人をおとりにして、一気にゴールまで走り抜けることができたよ！

やっぱり動きながら、正確にパスをつなげるのは難しかったね。

- 全体で本時のまとめをする。
  - 次時の学習内容を確認する。
- 相手に点数を取られないように、守り方も工夫してみよう！
- 後片付け



視点3 交流の視点の明確化  
話し合いの観点を明確にし、効果的な作戦会議にさせる。

視点1 ゲームでの技能の活用  
すでに身に付けた技能をゲームの中で活用することで、より確かな技能の習得を図り、課題解決的な学習を展開する工夫を行う。

視点3 交流の視点の明確化  
話し合いの観点を明確にし、効果的な話し合いにさせる。

○ 各チームの反省を取り上げて全体に広めていくことで、思考を深めさせる。